



## すべてのことに意味がある

◇ 「すべてのことに意味がある」…この言葉は、教師8年目（福岡にいる時）、当時の中原校長先生から教えてもらった言葉です。

この言葉は、一般的に、何か失敗をしても、そこには何らかの意味があり、別の出来事につながる何かがあるという意味で使われます。人生の中にはさまざまな苦労や失敗があるものですが、そんな時、くよくよばかりしていると、気持ちがどんどん凹んでいくんですが、その失敗にも意味があると考え、今の状況にはどんな意味があるのか、どんなメッセージがあるのかと考えることによって、前向きな思考に転換することができるといことです。ユニクロの会長も、1つの成功の陰に99の失敗があるとインタビューで語っておられました。いっそ、人生に失敗はつきものだと覚悟を決めてしまえば、少しラクになるのではないのでしょうか。そして、大切なのは、失敗しないことではなく、失敗した後どうするかだということ。「ピンチはチャンス」とはよく言われることですが、失敗には、学びのチャンスが詰まっているということ。

しかし、私はこの言葉を**別の意味のこと**として教えてもらいました。それは教育の世界にのみ通用することだと前置きされて、次のように言われました。

**自分が教師として子どもの前に立ったとき、指導するすべてのことに意味があると思って指導に当たりなさい。それが、目の前にいる子どもたちへの誠意です。**

つまり、「何を指導するにもいい加減な気持ちでやるな。その指導によって子どもたちの何をどのように育てたいのかをしっかりと考えてやりなさい」ということでした。また、「子どもたちへの誠意」という言葉には、「子どもたちは先生を選ぶことができない。だからこそ、自分が受け持つことになった子どもたちにいい加減な気持ちで接してはいけない」という意味が込められているとも教えてもらいました。

この言葉を聞いた頃から、時々、自分が指導しようとするにどういう意味があるんだろうと考えるようになりました。「この実践は、子どもたちを幸せにできるのだろうか？」と考えることが増えました。私の実践には、そのように考えることから生まれたものがけっこうたくさんあります。当時、参加していたサークル活動でも、実践の意味についてみんなで掘り下げていったこともありました。

この「ゆめ工房」に書こうとしていることも、同じように考えたことをまとめようとしているのかもしれない。

自分の実践、終わった後は次を考えてしまうのですが、時々、自分がやったことややろうとしていることについて、見直してみるのも大事なこともかもしれませんね。

文責：スギタ